

いきものみつけ

発行：いきものみつけファーム滋賀推進協議会

電話：090-7966-2262

FAX：0748-68-0598

編集：事務局 竜王 住所：甲賀市土山町黒川

E-mail :ryuoh-mtm@maia.eone.ne.jp 平成26年8月15日発行

四回目になりました寺子屋を八月十一～十三日に開催しました。今回は、滋賀の子どもだけでなく韓国水原市（スウォン）からの子どもたち十四名と日本のお子さん二十五名の日韓交流いきものみつけになりました。

まず、午前中は水辺。五月に子どもたちで田植えをした圃場周辺での観察。

数日前の台風により、現場となつた山内では避難勧告が出されるほどの大雨、残念ながら予定していた川遊びではなく、緑色の稲穂の周りを囲む水路でのいきものみつけをしました。



水路でのいきものみつけ、希少な動植物もみつかりました。



韓国の団体は普段は河川での生き物探しを主にされているので、田んぼの周囲での生き物探しは新鮮であったようです、田んぼの周囲の小さな生き物が息づいている様子を見て触って匂いで聞いて観察しました。

五感を使っていきものみつけ 日韓合同寺子屋を甲賀・山内で開催

これ?かんぴょう?
食は、甲賀特産で一工夫

その日見つけた水路や田んぼでのいきもの（河瀬学芸員より報告の抜粋）

● 水生昆虫 Aquatic insects

チビゲンゴロウ (A) *Guignotus japonicus* コオイムシ (A, L) *Appasus japonicus*

☆

タイコウチ (L) *Laccotrephes japonensis* ☆ アメンボ (A) *Aquarius paludum*

paludum

ヒメアメンボ (A) *Gerris lacustris latiabdominis* コミズムシ属 (A) *Sigara* sp.

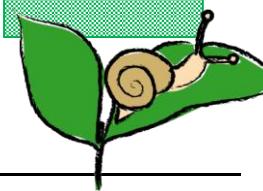


かんぴょうらしく
シナモン味

滋賀県立大学管理栄養学科の学生さんたち頭をひねっていたときお隣の水口かんぴょうを販売されたメニューを作つていたときました。豪華ちらし寿司、かんぴょうラスク、ナスとトマトのマリネ、人参ゼリー（かんぴょう入り）今まで見たことないかんぴょうラスクは、好評でした。韓國の方たちはかんぴょう食べたことがあるのかな

さあやまな生きもの(命)に支えられ生きている

川はみんなのもの 三田村教授より



生き物を通して私たちは環境をどのように考えていけばいいのかを考えましょう。の語りから三田村緒佐武先生(滋賀大学環境生態学特任教授)のお話が始まりました。

「私たちの食事はいきもの(命)を頂いたこと、だからいきものを大切にしたい、私たちは生き物で支えられているということなのです。

日本人も韓国の中も今はみんな幸せだけど、地球上には七十億のたくさん的人が住んでいるみんなが幸せになることを考えてみましょう。それにはいきものを大切にすることが必要なんですよ、

水は循環しています。雲から

雨、地上に入つて川に入る。蒸発する、人間のことを考えたら雨は嫌かもしだけど、

生き物にとつたら雨は大切、人間の都合だけで考えたらあきませんね。

水道の水を流したら、水が出てくるけど、どこから来ているんでしょうか?

川の流れも早いところと遅いところで住んでいる生き物が違う生きていけない。魚も人も。

水生昆虫も何かを食べないと生きられない。魚も人も。

魚を見たら何を食べているのか、何に食べられるのか、考えてみましょう。

朝採取した生き物も自然に返してあげた。自然にかえしてあげましたね。

人間の都合で自然(生態系)を壊してしまわないように・・・川は人のものではなく、みんなのものであることを忘れないで欲しい」と、三田村先生のレクチャーを受けました。自分たちの周りのいきものがつながって支え合っていること、これを学びました。

いきものみつけウオークラリー 自然豊かな山女原が教材・クイズに奮闘



お寺の柱の下を調べる子ども



見つけた! アリ地獄



獲物が落ちてくるのを待つ虫の正体



川はだれのもの

作詞作曲 みなみらんぼう
(NHKみんなのうた)

山に降った雨のしづく
岩をすべり落ちて
やがて細い川となった
川は「だれのもの?
住んでいる魚のものかしら?
それとも雨のものかな?
森のものだろうか?

村をくだり街を流れ
川は海を目指す
島があそぶ虹がかかる
人の希望燃えたつ
川は誰のもの?
岸辺の緑のものかしら?
それとも鳥のものかな?
人のものだろうか?

いいえその川も
誰のものでもありません
生きているすべてのものです
川はみんなのもの
川はみんなのもの



最後の午前中の生き物観察会と同様に日韓合同の四つの班で山女原(あけびはら)ウォークラリーを楽しみました。指導は、自然観察アドバイザーの井野教諭(小学校教諭)。自然豊かな地域の話題をクイズ形式の問題に変え、グループで相談しながら、答えを考えていきました。

問題一では、「このお寺の周囲にある小さな穴はなにでしょ

う?」三択から選ぶのですが、見たこともないアリ地獄。ついには、実際にアリをその穴に落としてみて、アリが吸い込まれる様子を確認しました。穴の中にはアリを獲物としている虫がいることも確認しました。

ウォークラリーから帰ってきたら、自分たちが考えたクイズの答え合わせに子吃たちからの笑い声。

「こんな自然豊かな街並みがあつたんだ」と大人たちも癒されていましたようです。夏の里山で多様な命、いのちのつながりや営みを発見することができました。